

平成26年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1. 集落協定の概要

都道県名：沖縄県

市町村名：宮古島市

島名：伊良部島

協定締結集落名：佐良浜漁業集落

交付金額：3,667千円

協定参加世帯数：45人（うち漁業世帯27人）

集落漁業者平均所得：1,234千円

2. 協定締結の経緯

宮古島市は八重干瀬などに代表される広大な珊瑚礁群に囲まれるとともに、島の南北に黒潮の潮流が流れるなど良好な海域環境を有しており、それらを活用した一本釣漁業、パヤオ漁業、網漁業、潜水器漁業、モズク養殖業等が営まれている。しかしながら、良好な漁場を有している一方、離島という地理的特性に起因する高コスト構造等の条件不利性などから漁業者の減少が進んでおり、この状況を放置すれば本市の漁業集落は一層衰退し、集落及び水産業が持つ多面的機能が低下することも懸念されている。

そのようなことから、漁業集落が行う漁場の生産力の向上や創意工夫を活かした取組などの活動を通じて漁業の再生を図りつつ、水産業が発揮する多面的機能の維持・増進に向け、佐良浜集落において集落協定を締結し、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

◇その他（パヤオ（浮魚礁）制作・設置）

曳縄漁業等の操業安定化を図るため中層型パヤオを設置。

実施状況写真



アンカー制作



投入の様子

②集落の創意工夫を生かした取組状況

◇低・未利用資源の活用

安価で取引または廃棄されてしまう小マグロ・カツオの活用に向け、先進地視察、商品開発への取組等を実施。

実施状況写真



先進地への視察・意見交換（奄美大島）



試作品検討会の実施

◇高付加価値化

鮮度保持等についての先進地視察、マグロヤケ対策試験調査等の取組を実施。

実施状況写真



先進地への視察・意見交換（奄美大島）



神経締めの様子

◇その他（魚食普及の取組）

一般市民への魚食普及に向けたイベント（お魚まつり）の実施。

実施状況写真



鮮魚一本釣り



模擬釣り体験

4. 取組の成果

オニヒトデ駆除により、漁場となるサンゴ礁の保全や就労時における安全確保が図られることで、生産力の向上が期待できる。

パヤオの設置によって漁獲対象物の蝟集効果が高まり、曳縄漁業、一本釣り漁業などの操業安定化が期待できる。

創意工夫を活かした低・未利用資源の活用、高付加価値化の取り組みにより、漁獲物の価値向上、新たな出荷体制の確立が見込まれ、集落の所得向上が期待できる。また、お魚まつりの開催により、市街地域の住民との交流が図られ、地元水産物の消費活動の増加につなげることができ、水産物資源の管理の重要性について広く普及啓発することができた。